

ライフサイクルカーボンの算定手法の構築

- 2050年カーボンニュートラルの実現に向け、建築物におけるCO₂の削減を図るため、使用段階だけでなく、**建設から解体に至るまでのライフサイクル全体を通じたCO₂の削減**が必要。
- このため、産官学の連携により、**ライフサイクルカーボンの評価手法を整備**することを目的に「**ゼロカーボンビル(LCCO₂ネットゼロ)推進会議**」^{※1}を設置し検討。 ※1 委員長 村上周三・一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター顧問
- 令和6年10月31日に、建築物のライフサイクルカーボン算定ツールであるJ-CAT^{※2}の正式版を公表。** ※2 J-CAT(Japan Carbon Assessment Tool for Building Lifecycle)

ライフサイクルカーボンの範囲

ライフサイクルカーボン (ホールライフカーボン)

アップフロントカーボン

エンボディドカーボン

資材製造段階			施工段階		使用段階 (資材関係)					解体段階			
原材料の調達	工場への輸送	製造	現場への輸送	施工	使用※	維持保全	修繕	交換	改修	解体・撤去	廃棄物の輸送	中間処理	廃棄物の処理

使用段階 (光熱水関連)

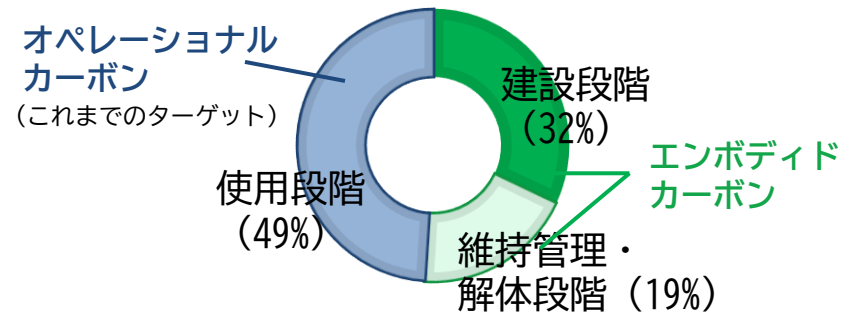
エネルギー消費

水消費

オペレーショナルカーボン

※冷媒・断熱材からのフロン漏洩等を指す。

ライフサイクルカーボンの構成イメージ



出典: Net-Zero Buildings (WBCSD, 2021)

骨太方針2024 (令和6年6月21日、閣議決定)

第2章 社会課題への対応を通じた持続的な経済成長の実現～賃上げの定着と戦略的な投資による所得と生産性の向上～
 / 3. 投資の拡大及び革新技術の社会実装による社会課題への対応/
 (2) GX・エネルギー安全保障

(略) …まちづくりGXを含むインフラ、カーボンニュートラルレポート、**建築物※**に加え、燃料電池鉄道車両、ゼロエミッション船、次世代航空機などモビリティ関連分野の**脱炭素化を進める**。… (略)

※ **建設から解体までのライフサイクル全体で、CO₂排出削減を促進するための取組。**